

16本の弦を持つ“ひとつの楽器”のように

第11回神奈川国際芸術フェスティバル

初来日公演

エルサレム弦楽四重奏団

10月9日(土) 14:00 開演

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第3番 二長調 作品18-3

スメタナ：弦楽四重奏曲 第1番 ホ短調「わが生涯より」

ラヴェル：弦楽四重奏曲 ヘ長調

全席指定 一般 ¥4,000 学生・シルバー(60歳以上) ¥3,000

主催：神奈川県立音楽堂〔財団法人神奈川芸術文化財団〕

彼らの平均年齢は若干26歳。しかし、この若さで結成からすでに10年の輝かしいキャリアを持ち、その卓抜した実力とアンサンブルの完璧さでヨーロッパで大絶賛を受けている驚異のクアルテットである。中でも第一ヴァイオリンの燃えるような甘美な音色は特筆もの。才能溢れる若者たちの精気に満ちた演奏が円熟の木のホールに響き渡る、必聴のコンサート。

写真：左から

アレクサンダー・パヴロフスキー 第1ヴァイオリン
77年ウクライナ生まれ 91年イスラエルへ

アミチャイ・グロス ヴィオラ
79年イスラエル生まれ

キリル・ズロトニコフ チェロ
78年ミンスク生まれ 91年イスラエルへ

セルゲイ・プレスラー 第2ヴァイオリン
78年ウクライナ生まれ 91年イスラエルへ

【エルサレム弦楽四重奏団 プロフィール】

1993年、エルサレムにて結成。メンバーの平均年齢は26歳という若さながら、活動歴は10年以上におよぶ。今までに欧米の名門ホールで演奏し高い評価を受けている。また、ダニエル・バレンボイム、ジェシー・ノーマン、ナターリア・グートマンといった名だたるアーティストと共演している。

1997年、オーストリアのグラーツで開かれた“シューベルトならびに20世紀音楽コンクール”でクルタークとバルトークの作品を演奏し、第1位および20世紀音楽最優秀解釈賞を受賞した。

1999年から3年間、BBCの“ニュー・ジェネレーション・アーティスト計画”に選ばれ、イギリスでも定期的に演奏を行なう。

2001年には、ルーブルでミニ・ベートーヴェン・シリーズを行なって話題となり、2003年には再びルーブルでハイドン・プロジェクトを開催。同年、アムステルダム・コンセルトヘボウにてバルトーク・フェスティバルに参加。またこの年、内田光子が名誉委員を務めるボルレッティ・ブイトーニ信託賞(本拠地：ロンドン 2002年4月設立)の初めての受賞者に選ばれ、来日直前の9月末に内田光子とロンドンおよびアムステルダムにてシューマンのピアノ五重奏曲を共演する。

CDは、EMIよりショスタコーヴィチとチャイコフスキー作品を、2004年春にはハイドンの作品を録音したハルモニア・ムンディでのシリーズ最初のCDをリリースしている。

「エルサレム弦楽四重奏団は、今、最も翔んでいる若い四重奏団です。私も彼らのファンの一人です。」
内田光子(ピアニスト)

お問合せ：神奈川県立音楽堂〔財団法人神奈川芸術文化財団〕

プロデューサー：桜井健二 制作担当：浅見

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-2 TEL045-263-2567 FAX045-243-6216

<http://www.kanagawa-ongakudo.com>

Jerusalem String Quartet

エルサレム弦楽四重奏団インタビュー

●初来日を歓迎いたします！ 日本について、どんな印象をお持ちですか？

日本のお客様の前で演奏すること、そして日本の文化を体験できることを心から楽しみにしています。また、日本食に是非トライしてみたいです。本物のお寿司を食べたいです！

●今回のプログラムについて選曲のポイントは？

今回はフランスや東ヨーロッパの作品を用意しましたが、お客様に幅広いレパートリーを聴いていただくように、違う時代・様々な様式・いろいろな国の作曲家の作品を交えながら、音楽の歴史を可能な限り広く見渡せるプログラムを選んでいきます。

ベートーヴェンはもちろん独奏的な作曲家です。第3番は作品番号18の中の3つ目となっていますが、実はベートーヴェンが書いた最初の弦楽四重奏曲なのです。僕たちがベートーヴェンの作品を演奏する時は、彼より後の作曲家の作品も演奏します。なぜならベートーヴェンと後世の作曲家との強い繋がりが実感できるからです。

フランス音楽の艶やかさを強烈に見せつけてくれるので、ラヴェルも大好きです。

スメタナの作品には民族音楽の影響が色濃く表れています。またそれぞれの楽器に、とりわけ出だしのヴィオラにはソロ演奏があるのです。

●演奏者の立場から、クアルテットや室内楽の面白さ、楽しさについて日頃感じていることは？

逆に難しさや課題があるとすれば、どのように克服していらっしゃいますか？

ティーンエイジャーだった時から弦楽四重奏団として演奏してきて、ちょうど10年になります。お互いをよく分かり合っていますし、ほとんど家族のように成長してきました。ですから僕たちはかなりいい状態にあるのではないかと思います。どんなことでも即決しますし、どんな問題でもすぐに解決します。...実はどんな問題にも5つの意見が出てしまうのですが！

でも、それもすぐに集約することができ、1人の意見のようにまとまります。そうなんです、僕たちは“16本の弦が張ってある1つの楽器”のような音創りを目指しているのです！

●10代で結成し、その後メンバー交替もなく10年以上活動を続けてこられました。同じメンバーで息のあった音楽づくりを実現していくうえで、皆さんが心がけてきたことはありますか？

弦楽四重奏というものはアンサンブルの極みを生み出すことができますが、本当に難しい。ほとんどのグループは高等音楽院で結成されたり、また僕たちもちょうど今そういう年齢ではありますが、音楽家が一個人として大なり小なり形成され、物の道理が判るようになった時に結成されます。

しばしば問題も生じますし、解決するのも難しかったり、長続きしないグループも出てきます。僕たちは若い時に結成し、初めから素晴らしい先生に恵まれ、共に成長し、弦楽四重奏団という僕たちの進路を見つけることができたことは本当に幸せです。

(2004年4月30日 テレビマンユニオンによるe-mailインタビューより抜粋)

お問合せ：神奈川県立音楽堂(財団法人神奈川芸術文化財団)

プロデューサー：桜井健二 制作担当：浅見

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-2 TEL045-263-2567 FAX045-243-6216

<http://www.kanagawa-ongakudo.com>